

単元名 表を使って考えよう(2)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 伴って変わる2つの数量の関係に着目し、数量の和や差の変化を表に整理することができる。
 (2) 数量の和や差の変化を整理した表を使って考え、きまりを見付けて問題を解くことができる。
 (3) 表を使って考えるよさに気づき、進んで表からきまりを見付けて問題を解こうとする。

標準的な展開例

05040307_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 2つの量の和に着目して問題を解決する。[p. 234]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表にかいて、変わり方のきまりをみつけよう。 ○ 時間とあやのさんの進んだ道のり、お姉さんの進んだ道のり、2人合わせた道のりを表にし、変わり方を調べる ○ 変わり方のきまりを使って、答えを求める。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 2つの量の差に着目して問題を解決する。[p. 235]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表にかいて、変わり方のきまりをみつけよう。 ○ お兄さんが追いかけた時間とはるとさんの進んだ道のり、お兄さんの進んだ道のり、2人間の距離を表にし、問題を解決する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表だけで理解できない児童には、変化の様子を絵や図に表させ、問題の関係や表の意味が理解できるように工夫する。 <p>【評】 変わり方のきまりを見付けて問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人の道のりの差が徐々に縮まっていくことに気付かせる。 ・ きまりを見付けることにより、表を途中まで作るだけで、答えが求められるよさを感じさせる。 <p>【評】 変化のきまりを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

児童は、数の少ない場合において伴って変わる数量の変化していく様子を表に表し、そこから規則性を見付け出して数の多い場合を類推することを学習している。本単元では、表を詳しくかかずに変わり方のきまりを見付け、求めることを学習する。数量の変化を表に表すことによって、きまりを見付けて問題を解く思考力が養えるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。